

統合失調症の外来・入院患者間でのメタボリックシンドロームの有病率の差異 —全国モニタリング調査より—

Difference in prevalence of metabolic syndrome between Japanese outpatients and inpatients with schizophrenia: A nationwide survey

須貝 拓朗¹、鈴木雄太郎¹、山崎 學²、下田 和孝³、森 隆夫²、尾関 祐二³、松田ひろし²、菅原 典夫⁵、古郡 規雄⁶、南 吉武²、岡本 呉賦²、寒河江豊昭⁴、染矢 俊幸¹

1 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

2 公益社団法人日本精神科病院協会

3 獨協医科大学精神神経医学講座

4 山形県立米沢栄養大学

5 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター

6 弘前大学大学院神経精神医学講座

[Schizophrenia Research 2016 年・171 巻(1-3):68-73]

【目的】統合失調症患者の平均余命は一般人口よりも約 15 年短いとされている。この背景には糖尿病などの生活習慣病や、その前段階であるメタボリックシンドローム (metabolic syndrome: MetS) の有病率の高さが指摘されているが、人種間での報告によってばらつきがある。そこで統合失調症患者が抱える様々な身体リスクの実態を明らかにすることを目的とし、2012 年度から日本臨床精神神経薬理学会と日本精神科病院協会との協力体制による「抗精神病薬治療と身体リスクに関する合同プロジェクト」が発足した。本研究では同プロジェクトで行った大規模アンケート調査結果から、日本人統合失調症患者におけるメタボリックシンドローム (MetS) の実態とその特徴について検討した。

【方法】2012 年 12 月から 2014 年 7 月にかけて、日本精神科病院協会加盟施設に外来通院中および入院中の日本人統合失調症患者を対象とした身体リスク実態調査をアンケート形式にて行い、外来患者 7655 名、入院患者 15461 名についてそれぞれ有効な回答を得た。MetS の診断は The adapted National Cholesterol Education Program Adult Treatment Panel (NCEP ATP3-A) および The Japan Society for the Study of Obesity (JASSO) を用いて行った。尚、本研究は日本精神科病院協会倫理会議の承認を受けている。

【成績】世界的な基準である ATP3-A による外来および入院統合失調症患者の MetS 有病率はそれぞれ 34.2% (男性 37.8%: 女性 29.4%)、13.0% (男性 12.3%: 女性 13.9%) であった。また日本肥満学会 (JASSO) が提唱する基準では、外来および入院統合失調症患者の MetS 有病率はそれぞれ 22.9% (男性 34.0%: 女性 9.7%)、8.3% (男性 13.1%: 女性 3.6%) であった。いずれの基準を用いても、外来患者は入院患者に比し、MetS の有病率が 2-3 倍高いことが分かった。JASSO 基準を用いて一般人口を対象に行われた国民健康栄養調査の結果と比較すると、外来患者は一般人口よりも高く、入院患者に関してはむしろ一般人口よりも低い MetS 有病率が認められた。

【結論】本研究により、日本人外来統合失調症患者の MetS 有病率は入院患者に比して明らかに高いことが示され、外来・入院患者間の生活習慣の違い、すなわち栄養や運動が管理されている入院環境は MetS 発症に関して保護的に働いている可能性が示唆された。